平成７年度企画展概要

福島県立美術館

展覧会・会期・出品点数	展　覧　会　概　要
子どものための美術展'95 **美術の光／光の美術** ４月22日(土)～５月28日(日) 絵画、写真、ガラス工芸、ライトアートほか55点	美術における光と色、ひかりと影の関係などを作品を通して理解するとともに、レーザー光のような光そのものを表現手段とした作品を展示するなど、光をめぐる様々や表現をポイントをおさえてわかりやすく紹介します。さらに子どもたちが実際に手を使い、体を動かして楽しむうちに鑑賞の手がかりが得られるような遊びのコーナーも設け、児童、生徒をはじめ、一般の人々にとっても好適な美術鑑賞入門の展覧会です。
アンドリュー・ワイエス展 ６月10日(土)～７月16日(日) テンペラ画、水彩ほか140点	今世紀のアメリカ絵画を代表する画家アンドリュー・ワイエスは、アメリカ、ペンシルヴェニア州に生まれ、高名な画家であり、イラストレーターであった父 N.C ワイエスから幼少の頃より絵の手ほどきを受け、たぐいまれな描写力で早くから作家として認められました。アメリカ東部の自然とそこに生きる人間を透徹した観察力と卓越した技術で描くワイエスの世界は、深い思索を呼び起こす静寂なドラマとして多くの人々の熱い共感を得ています。今回の展覧会は、初期から最新作までの作品140点でワイエスの全画業を回顧するものです。
マイヨール展 ７月22日(土)～９月10日(日) 彫刻約70余点　版画、素描約20余点	フランスの彫刻家マイヨール（1861～1944）は、ロダン以後を代表する世界的な彫刻家として知られています。パリの国立美術学校で絵画を学び、画家として活動をした後、やがて彫刻の才能を自覚し、1900年代に入って彫刻を本格的に始めます。古代彫刻を研究し、古典的な均整と調和を求めたマイヨールの裸婦像は、堂々とした量感とおおらかさをたたえています。本展では、約73点の代表的彫刻作品に素描16点、版画４点を加えて、マイヨール芸術の全貌を紹介します。
歌舞伎の衣裳展 ９月19日(火)～10月22日(日) 歌舞伎衣裳120余点　浮世絵版画30余点	江戸期大衆文化として花開いた歌舞伎は、時代の波を乗り越えて現在に至るまで大衆に支えられながら継承され、江戸・大阪だけでなく日本各地で庶民の生活に活気と節目を与えてきました。歌舞伎の本領が役者の芸にあることはいうまでもありませんが、その魅力は舞台装置と衣裳を抜きには語れません。特に衣裳は、意匠と技術の粋を凝らして制作されており、歴史の舞台には表れにくい庶民の美意識とエネルギーをみることができます。本展では、本県檜枝歌舞伎に代表される地歌舞伎の衣裳を加えた日本各地の歌舞伎衣裳を展観し、その斬新なデザインと躍動感を紹介します。なお、本展は、第50回国体公開競技スポーツ芸術主催事業でもあります。
板谷波山展 10月28日(土)～11月26日(日) 陶磁器110余点	板谷波山（1872～1963）は近代日本の陶芸を芸術の一分野として位置づけることに貢献した陶芸家です。明治初期以来の技巧偏重の職人芸的な制作にとらわれていた陶芸界で、自己の個性を発露させる手段として芸術性に富んだ作品を生み出しました。彼の作風は、端正で格調高く、特に彩磁や葆光彩磁は彼独自の技法で現在も高い評価を受けています。本展では、日本陶磁器の最高峰ともいえる波山の作品を、初期から晩年までの約110余点を通して紹介します。
福島の新世代展（仮称） １月27日(土)～３月10日(日) 日本画、洋画、彫刻、工芸など約100点	新鮮な表現や造形の中に独自の世界を追求し、充実した創作活動を展開している若手の作家たちが、様々な分野で次々と生まれてきています。この展覧会は、福島県出身もしくは在住の、そのような〝新世代〟の作家たちにスポットをあて、彼らの活動を積極的に紹介していこうとするものです。福島の美術界に清新な風を送り込む彼らの創作を、約10名の作家の約100点によってみていただこうとするものです。